

平成 26 年度図書館情報学海外研修助成報告書（抜粋版）

図書館情報メディア研究科 博士前期課程 1 年

201421584 小南 理恵

研究テーマ：「読書の自由」の成立過程：1953 年ウェストチェスター会議を中心に

研修期間：平成 27 年 3 月 16 日～23 日（8 日間）

目的地：アメリカ合衆国イリノイ州シャンペーンおよびワシントン DC

主な訪問先：American Library Association Archives

Library of Congress Manuscript Reading Room

1. 研修目的

現在、1953 年にアメリカ図書館協会（American Library Association、以下 ALA）とアメリカ出版会議（American Book Publishers Council）の合同で発表された声明「読書の自由」（The Freedom to Read）を対象とし、研究を行っている。特に「読書の自由」成立の背景として、1950 年代初頭においてアメリカを席卷したマッカーシズムによる言論弾圧に対する抵抗の動きを取り上げ、アメリカ図書館界と出版界の協力関係を明らかにすることが主たる研究課題である。本研修では「読書の自由」成立に関する文書を所蔵する図書館や文書館を訪問し、現地での文献調査を行う。

2. 研修内容

3 月 17 日から 18 日の 2 日間にわたり、ALA Archives において主に「読書の自由」成立における ALA 知的自由委員会の活動に関わる文書の収集を行った。また、3 月 20 日から 21 日の 2 日間は Library of Congress Manuscript Reading Room において、「読書の自由」成立やアメリカ出版会議会長を務めたレーシー（Dan Lacy）に関わる文書の収集を行った。以下ではその内容について報告する。

2. 1 ALA Archives

ALA Archives は University of Illinois at Urbana-Champaign (UIUC) Archives の一コレクションとして位置づけられており、同大学に存在する Archives Research Center^{注1}で文書の閲覧を行うことができる。今回は先行研究や ALA Archives が提供する Box/Folder List^{注2}を参考に、「読書の自由」成立に関わる文書を含むと考えられる Box を

注1 Archives Research Center の 1 階にレファレンスデスクと閲覧室が設けられている。

注2 以下のページから所蔵資料の検索とリストの入手が可能である。

ALA Archives. "The American Library Association Archives". The American Library Association Archives. <http://archives.library.illinois.edu/alaarchon/>, (accessed 2015-4-10).

15 箱程度リストアップし、現地ではそのうち約 10 箱についてデジタルカメラでの撮影を行った。資料の形態は、製本済みの議事録、報告書、書簡、タイプ原稿、新聞記事、手書きのメモ等様々であった。



図 1. ALA Archives の Box



図 2. 閲覧室

2. 2 Library of Congress Manuscript Reading Room

Library of Congress Manuscript Reading Room は同館を構成する 3 つの建物（ジェファーソン館、マディソン館、アダムス館）のうち、マディソン館の 1 階に設けられている。閲覧・撮影したものは The Central File Series と呼ばれるコレクションのうち第 9 代議会図書館館長を務めたマクリーシュ（Archibald MacLeish）と第 10 代エヴァンズ

（Luther Evans）期の文書を収めた Box のうち 2 箱である。事前に先行研究や議会図書館の OPAC から関連する Box をリストアップした後、メールで所蔵確認を行った。また現地では館内でのみ閲覧可能な目録でさらに確認をとった。資料の形態は書簡、タイプ原稿、報告書、日記等が主であった。

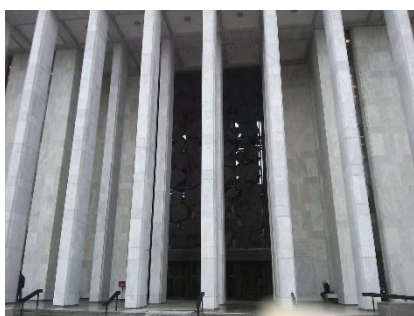


図 3. マディソン館



図 4. 議会図書館の Folder

3. おわりに

本研修では、「読書の自由」成立の起点となった 1953 年のウェストチェスター会議に関する報告書や書簡を所蔵する図書館や文書館を訪問し、現地での文献渉猟を行った。ここで得られた成果をもとに、修士論文の執筆を行っていく予定である。